

最先端の航空機開発の一翼を担っていることに誇りと夢を感じる。



及川隼登さん(1992年生まれ)

刈谷北高校 出身

室蘭工業大学 工学部機械航空創造系学科卒業

株式会社メイテック

東京都台東区上野1-1-10 オリックス上野1丁目ビル
<https://www.meitec.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→航空機系の分野を学べる大学に進学→エンジニア派遣サービスをおこなう企業に就職→メカエンジニア

—学生時代

「高校時代は、ごく平凡な生徒でした。大学受験が近づくにつれて、『やりたいことは何だろうか?』と考えるようになりました。飛行機が好きだったので、単純に『飛行機に関わる仕事がしたい!』と思ったことが、室蘭工業大学機械航空創造系学科に進学したきっかけです」

大学時代について教えてください。

「物理の座学を中心に、航空機がどういう原理で飛んでいるのか、なぜ落ちないのかなどの基礎的な理論を学びました。航空宇宙機の開発時の苦労話を伺ったり、不具合が起きたときの対策の考え方も学びました。学びを通して、今まで漠然ともっていた想像が明確な知識になっていった気がします。実習も楽しかった記憶があります。チームでラジコンの木製飛行機を設計し、構造を考えて部品を作り、実際に組み立てていく実習は印象に残っています。大学卒業後は、様々な業界にエンジニアの派遣をおこなうメイテックに就職しました」

—仕事について

「現在私は、カーボンニュートラル(温室効果ガスの排出量が全体としてゼロになっている状態)に向けた航空機開発を行っています。今はその開発の初期段階。約20年先に市場に出るであろう航空機を開発するための基礎を作っています。たとえば家電だと、試作品を作って不具合を修正していく手法がありますが、航空機は大きすぎて試作品が作れ



ません。1機の試作を作るのに何百億円とかかってしまいますから。航空機を最小限に分割し、1個1個の技術や材料を実験し、考察して結果を積み上げていきます」

心がけていることは?

「メカエンジニアとしてはまだ駆け出しですが、自分のアイデアや意見は、まわりに発信するように心がけています。先輩に指摘されて勉強になることも多いです。自分の意見から議論が進むきっかけになることもあります。先輩に自分の意見を認めてもらえたりと、小さな成長をモチベーションにして日々の仕事に取り組んでいます」

—やりがい

「今関わっている仕事は、社会的にとっても価値のあることだと思っています。世界中が国をあげてカーボンニュートラルに向けて動こうとしている現状。そのなかで国内最先端の航空機システムの開発の一翼を担い、それが世界の発展に貢献できていることに誇りと夢を感じています。また、いまだ誰も知らない、習ったこともない知識を吸収していけることもエンジニアの魅力だと思っています」

—メッセージ

「エンジニアになりたいなら、いろんなものにふれることが大切だと思います。危険な部品を調べたうえで、自分でゲームを分解して組み直してみたり、自転車をいじってみたり。ただ、既存のモノばかりに目を向けても視野が狭くなるので、ふれるものは、機械だけでなく、芸術でも動物でも何でも良いと思います。実際、飛行機の静音性はフクロウの羽根の形状がアイデアになっています。ですからね。どんなところにもアイデアは転がっているので、学生時代はいろんな経験を積んでください。ありがとうございます。」



- 18歳 飛行機が好きだったこともあり、室蘭工業大学機械航空創造系学科へ。
- 23歳 大学では、航空開発の基礎を学ぶ。卒業後、メイテックに就職。
- 30歳 カーボンニュートラルに向けた、国内最先端の航空機開発に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



「石」という素材を加工し、価値を高め、この先、何百年と残っていくものを作る。



稲垣遼太さん(1990年生まれ)
 愛知産業大学三河高校 出身
 愛知学院大学 文学部宗教文化学科卒業

有限会社稲垣石材店

岡崎市上佐々木町中切 8-5
<https://inase-utsuwa.com>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→授業で禅の思想、茶道を通して美的感覚を養う→身につけた感性をいかして、石のプロダクト開発にも取り組む

——学生時代

「将来は家業である石屋を継ぐという思いが心のどこかにあり、高校生のときから修行が始まりました。15歳くらいのおときです。セメントを練る作業や石の据え付けなど、直射日光の下で過酷な環境での修行でした。高校卒業後は、愛知学院大学宗教文化学科に進学しました」

——大学時代について教えてください。

「座禅を組んだり、世界でも注目されている『ZEN(禅)』の思想について勉強したりしました。文化的な『道』と付くものを学んでみたいという思いがあり、部活は茶道部に。礼儀作法を学び、心を磨くことができました。季節に合わせたしつらえや、茶室という空間を作る総合芸術から、茶道の奥深さや美的感覚を学べたのは大きいです。その感性は、プロダクト開発にもいかせています。今も続けていますし、一生ものの趣味に出会うことができました」

——仕事について

「石工として一人前になるには、10年は修行する必要があります。石を切る、割るという作業だけでも、高度な力加減や石の目を読む力が求められ、それは一朝一夕で身につくものではありません。私自身は、石製品の販売企画提案、ギャラリー「石室寿山」の運営などが主な仕事。「INASE」というブランドを立ち上げ、プロダクト開発もおこなっています」

——仕事内容を簡単に教えてください。

「地球から剥がさせてもらった『石』



という素材を加工し、価値を高め、販売すること。この先、何百年と残っていくものを作る仕事です。時には、自分で山を登って自然石を採取することも。何を作るかを思い浮かべながら宝探しをする感覚です」

——メッセージ

「岡崎は良質な石が採れ、石製品の産地ですが、このままだとビジネスとして成り立たなくなる可能性があります。チャレンジしないと生き残れない現状ですが、逆に新しい価値を生み出しやすい環境なのかもしれません。可能性に溢れている業界だと思えます。高校生のみなさんは、とりあえず興味をもったものには飛び込んでほしいです。現場に行ってみる、話してみる、体験してみる。それが何につながるのか、役に立つのかはわかりません。でもその経験は絶対に財産になりますよ。ありがとうございます。」

- 17歳 石屋の修行として、セメントを練る作業や石の据え付けなどを経験。
- 22歳 大学時代は、茶道に熱中。茶道の奥深さや美的感覚を学ぶ。
- 33歳 国内外に向けて、石の価値、石工の技術、存在価値、芸術性を伝える。



先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！
<http://amb100search.com>



学生が一番最初にふれる、
企業にとっての縁の下の力持ち。



中根綺華さん(2001年生まれ)

知立高校 出身

トヨタ自動車株式会社

豊田市トヨタ町1番地
https://toyota.jp/

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→自動車メーカーに就職→人事部に配属

—学生時代

「デジタル化していく世の中で必要なスキルである情報処理の知識を身につけたいと思い、資格勉強に励みました。日々の積み重ねの成果もあり、日商簿記 国家資格である1Tパスポートなどの資格を取得することができました」

就職先を選んだ決め手は？

「高校3年の就職先を決めるとき、トヨタ自動車の人事の方と話す機会がありました。そのときに、求人票だけではわからない会社のことや業務について教えてくださり、入社前の不安要素を一つひとつ取り除いてくれました。人材に関する考え方に惹かれたこともトヨタ自動車に就職したきっかけです」

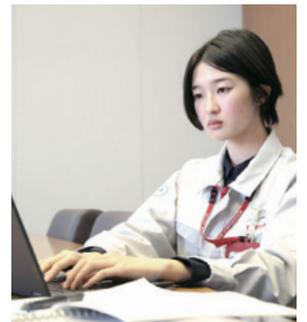
—仕事について

「私が担当する採用業務は、1年かけておこなうものなので、毎月同じ業務があるわけではありません。前後工程や相手を意識した仕事の進め方計画の立て方が大切だと学びました。先輩から細かく親身になって指導していただいたので感謝しています。アルバイト経験もなかった中で、働くという環境に慣れるのが初めは大変でした。社会人としての振る舞いやTPOなどを自分で判断できるようになるまで時間がかかりました」

仕事内容を簡単に教えてください。

「中学、高校、専門・短大卒者を対象とした求人活動が主な仕事です。求人票の作成、会社説明会の申し込みの仕組みづくり、筆記試験の監督、

—メッセージ



「専门的な技術や知識よりも、自分のためだけでなく他人のために一生懸命取り組める気持ちのほうが社会では求められると思います。学生時代は、見えないところで自分を支えてくれている人、関わっている人への感謝の気持ちを忘れたいです。直接的な関わりは目に見えないかもしれませんが、裏方で動いている人たちがたくさんいるのです。それは、学校も企業も一緒です。先生や友達、家族など、数えだしたらきりがなく、ありがたいと思いますよ!」

「縁の下の力持ち」です」
心がけていることは？
「仕事は、相手がいて成り立っているものがほとんどです。相手の立場に立って考えることを心がけています。また、採用活動は企業にとっては毎年おこなう業務ですが、学生にとっては就職活動という人生の一大イベント。できる限り相手に寄り添って業務を遂行するように心がけています」

「自分の知識をいかしてシステムを考え、業務をより効率的にすることができたとき、それをまわりによろこんでもらえたときにやりがいを感じます。成長を感じるのは、過去の経験からトラブルを事前に予測して対策を講じることができたとき。今後ともよりいっそう縁の下の力持ちとして、まわりが働きやすい環境を整えていきたいです」

—やりがい

自分史

- 17歳 日商簿記、ITパスポートなどの資格を取得。
- 18歳 高校卒業後、トヨタ自動車に入社。社会人としての心構えなどを学ぶ。
- 21歳 採用活動を担当。縁の下の力持ちとして、日々の業務に取り組む



先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



常に知識をアップデートし、
お客様の課題に対しサポートをおこなう。



中尾隼 さん(1996年生まれ)

豊丘高校 出身
南山大学 経済学部卒業

豊橋信用金庫

豊橋市小磯町579
<https://www.toyo-shin.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 証券外務員、生命保険・損害保険募集人など
※入庫後に取得
- 主な進路 / 高校卒業→大学の経済学部に進学して金融について学ぶ→金融機関に就職→営業に配属

—学生時代

「ソフトテニス部に入っていて、大会に向けて一生懸命練習に取り組んでいました。みんな仲がよかったので、社会人になった今でも定期的に集まっています。あとは、受験勉強が大変だったという記憶があります。毎日何時間ずつ勉強するかを決めて取り組んだのですが、おかげで勉強する癖が身につきました。社会に出てからも、その習慣は役に立っています。卒業後、南山大学経済学部に進学しました」

「学んだのは、ミクロ・マクロ経済学や計量経済学など。ゼミでは、官公庁などのデータの見方、その背景の分析の仕方などを学びました。就活の軸にしたのは業種はしぼらずに地元に残って働ける場所。インターシップに参加したとき、支店の雰囲気や働く環境に魅力を感じ、豊橋信用金庫を志望しました」

—仕事について

「入庫後、2週間の研修があり、金融業界の知識やビジネスマナーなどを学びました。支店に配属されてからは、預金係を経て融資係を経験し、現在は営業を担当しています。1年目は、生命保険・損害保険募集人、投資信託などを販売する証券外務員、銀行業務検定などの資格を取得しました」

「仕事内容を簡単に教えてください。」

「1つ目の仕事は集金活動。各家庭や企業を訪問し、定期積金や売上金の集金をおこなっています。そ



の際に、お客様が抱えている悩みや課題をヒアリングして、その課題に対してサポートをおこないます。個人のお客様だと自動車ローンや住宅ローンに関する相談が多いですし、法人の場合は経営者や経理の方と細かく話して課題を見つけていきます。融資や資金繰り、補助金申請に関する事など、お客様に寄り添ったサポートを意識しています」

「自分自身が知識をもっていないと良い相談相手にはなれません。日々のニュースはもちろんチェックしていますし、決算書の見方、簿記の知識、財務や税務の知識、補助金に関する事など、常に知識をアップデートするための勉強を心がけています」

—やりがい

「コロナ禍で融資を受けるお客様が多かったのですが、2、3年経って『あのときに融資を受けてよかった』という声をいただくやりがいを感じますね。毎年、決算書を見せていただくのですが、私たちのサポートが売上に反映されていることがわかるとうれしいですね」

—メッセージ

「人の生活や、企業の経営に密着してお金を取り扱う仕事なので、人に気を遣えることが重要です。資格よりも気づかいですね。あとは、地元に着るある人のほうがやりがいは大きいと思います。その気持ちがあれば、『地元企業のために』という軸がきつとぶれないですよ。社会人になると時間の縛りがあるので、学生時代と同じことはできません。今しかできないことに取り組みんでください。そして、社会人になってからも気軽に会える関係の友達を作ってほしいです」

「ありがとうございます」



18歳
↓
22歳
↓
26歳

部活に取り組んだ高校生活。今でも集まる仲間ができる。

ゼミでは計量経済学を研究。卒業後は、豊橋信用金庫に入庫。

「地元企業のために」という軸をぶらさずに、日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



物流がなければ世界は回っていきません。
私たちの仕事は、正に縁の下の力持ち。



山田和弥さん(1996年生まれ)

大野高校 出身
中部大学 経営情報学部卒業

サーラ物流株式会社

豊川市宿町野川1-27
<https://www.logi.sala.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→物流会社に就職→中型免許、運行管理者などの資格を取得→物流管理

—学生時代

「高校生のときは将来のビジョンが明確ではなかったのですが、大学に進学してから固めていこうという感じでした。高校卒業後は、中部大学経営情報学部に進学。大学では、経営や会計、情報活用について学びました。様々な分野の基礎を幅広く学べたことがよかったです。卒論では、YouTubeの広告効果について研究しました。ゼミで実施した企業研究では、サーラグループをピックアップ。そこで興味をもった、エネルギー輸送や貨物輸送・保管をおこなうサーラ物流に就職しました」

—仕事について

「入社後、約2ヶ月間の研修があり、サーラグループのことや物流現場について学びました。先輩からは、無理せずに今自分にできることに一生懸命取り組むことが大切だと言われました。研修後、最初に任せられたのはプロパンガスの配送。お客様の住所や設置容器などが記載された指示書をもとに、効率の良いルートを自分で考えることが大切です。最初は、地図の見方に苦労しましたが、経験を積みながら少しずつ覚えていきました」

入社後に取得した資格は？

「入社後、民生用バルクローリーからLPガスのバルク供給設備への充てん作業をおこなう際に必要な充てん作業者、ドライバーの管理や教育などをおこなう運行管理者、中型免許などの資格を取得しました。」

—メッセージ

「入社時に必須となる資格は特にありません。資格よりもコミュニケーション力を身につけておくことが大切かもしれません。あとは、傾聴力も大切です。いろいろな人の意見に耳を傾けることができ、自分の意見を発信できる人が活躍できる業界だと思っています。みなさんには、学生生活を通して地道に勉強する習慣を身につけておいてほしいです。社会に出てからも、新しい知識の習得や資格取得など、勉強はずっと続きますからね」



仕事内容を簡単に教えてください。

「担当する商品が何であれ、物流は社会にとって必要な血液。物流がなければ世界は回っていきません。私たちの仕事は、正に縁の下の力持ちのような役割だと思えます。現在、私が担当しているのは、建設現場や工場などで使われる工業用の高圧ガス。高圧ガスは、地域社会にとって必要なインフラと言っても過言ではありません。日々の仕事を通し、建設現場や工場への安定したエネルギー供給を支えています。現場では、事故をしたり物を倒したりしないように安全管理を徹底しています」

—やりがい

「工場や現場が動いているのは、自分がエネルギーをしっかりと供給できているから。現場の方から、「ありがとう」と感謝されたときにやりがいを感じます。日によって仕事量が変わってくるのですが、仕事量が多くなってもうまく調整できて完了できるときは達成感があります」



- 19歳 中部大学に進学し、経営や会計、情報活用について学ぶ。
- 22歳 大学卒業後、サーラ物流に就職。サーラグループや物流現場について学ぶ。
- 27歳 工業用の高圧ガスを担当し、建設現場や工場への安定したエネルギー供給を支える。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>





©Michiyuki Ohba

「人と人をつなぐ仕事。言葉がなくても音を通して語れる、人の心を動かすことができる仕事です。活動としては、依頼がきた仕事にきっちり取り組んで、次の仕事を貰う。その繰り返しです。音楽活動をするためには、まずは勉強しながら自分の技術を向上させることですね。そうすればオーケストラに声をかけられたり、ダンスカンパニーなど様々なプロジェクトから声をかけられたりしますよ。そもそも技術と見合っていないと、依頼自体が自分のところにはきませんから。自分からも積極的に行動し、ソロ活動もおこないました。現在は、アメリカと横浜に拠点を置き、定期的に日本や海外でソロリサイタルも開催しています」

挫折を経験したことは?

「ダンスカンパニーとのプロジェクトで、私のソロでスタートする演出があったんです。1年間ステイして新作を作っていたのですが、前夜に演出家に呼ばれてソロをカットされることに。『このままでソロが強すぎて、加藤さんのリサイタルになってしまふ』と言われて。6人くらいの打楽器奏者と同行してツアーが決まっていたのですが、そのときはストレスで帯状疱疹ができてしまっ、お先真っ暗という感じでした。そういう大きな挫折、失敗はたくさんありますよ。その瞬間は

世界が終わった気がします。でも、私のいいところを見られる人もいっぱいいるので、挫折を乗り越えるには、1回1回本番に向かって最善を尽くしていくしかないですね」

「やりがい」

「時から太鼓の面に振動が伝わり、その振動が音に変わって体につながって返ってくる。リズムと鼓動を続けるグルーヴの快感が音楽に携わる魅力ですね。あとはステージに立つ喜びです。葛藤しながらも、フィジカルを整えて、1回1回のステージを大事にしています。お客さんは、自分の人生に重ね合わせて見ている人が多く、演奏を聴いて泣かれる人がけっこういるんです。その人のバックグラウンドにもよると思いますが、自分が出した音で泣いてもらえるのはうれしいですね。人が一生懸命やっていることで、素直に感動できる人に出会えたときがうれしいです」

音楽教育と文化振興にも取り組んでいるんですね?

「若手のプロ演奏家育成を目的としたアーティストインキュベーションプログラム『inc.』を主宰しています。若い表現者が一生懸命ついてきてくれることもうれしいです。自発的に『もっと頑張りたい』という意思を示してくれたら、自分の影響

加藤訓子 さん
時習館高校 出身 桐朋学園大学 研究科修了

15歳
↓
24歳
↓
現在

マリンバと出会い、打楽器から生まれるグルーヴ感に衝撃を受ける。

桐朋学園大学研究科修了後に渡欧。ロッテルダム音楽院を首席で卒業。

日本と米国を拠点に活動。2019年、豊橋特別ふるさと大使に就任。

©Michiyuki Ohba

「メッセージ」

「今もそうなんですけど、子供のころから私は自分に自信がなくて引っこ込み思案な性格だったんです。人に自分を表現するのが苦手な学校でも手を挙げないタイプ。でも子供ながらに気づいたのは、練習さえしっかりしていれば、どんなに緊張しても指はちゃんと動くということ。やっぱり失敗するときは練習が足りていないんです。1回成功すると、それが自信につながって、次は落ち着いて演奏できるようなもの。その繰り返しです。どんなジャンルでも同じだと思います。日頃の努力を忘れないようにしてくださいね」

「学生時代に取り組むべきことは？」

「みなさんは無限の可能性を秘めているので、いろんなことに挑戦してみてください。実際にやってみることが大切。20代までは失敗してもOKです。自分ももっている引き出しと、新しいものが出会った感動をぜひ体験してほしいです。学生時代に深く悩んでも仕方ありません。どこまでいっても自分自身でできることしかできません。そのためにも日々の積み重ねが大切なんです。積み重ねが自信につながり、その自信が行動に変わるはずですよ！」

「ありがとうございます！」



©Michiyuki Ohba

**YOUTH
ユースフラッシュ
FLASH**

三河出身の有名人インタビュー

時習館高校出身のパーカSSIONニスト、加藤訓子さんを独占取材!

中学時代にマリンバと出会い、パーカッションの道へ進むことに。ヨーロッパを中心に海外を拠点に音楽活動を続けてきた加藤訓子さん。2019年には豊橋特別ふるさと大使に就任しました。音楽活動だけでなく若手教育にも熱心に取り組む加藤さんに、音楽の魅力、豊かな人生の送り方を聞いてきました。

「打楽器との出会い」

「姉の影響で、まず最初にピアノを習いはじめました。それが3、4歳のころですね。小学校に入ってからヤマハにも通いはじめ、音楽理論や作曲なども習いました。でも私は手が小さく、オクターブがやっとなかなか演奏したい曲も弾けず、いつもモーツァルトばかりでした。そんななか、中学時代はいろんな楽器を演奏する機会があり、そこで出会ったのがマリンバなどの打楽器です」

「どんなところに打楽器の魅力を感じたのですか？」

「単純なリズムを繰り返してできるグルーヴを実感してしまっただけです。シンブルにトランスできると思います。太古の人間の生活、原始的な音楽の始まり、世界中の音楽のルーツを打楽器から感じました。そんな体験もあり、中学生のある日、『私は打楽器をやろ!』と親に突然言い出して、翌日から浜松までマリンバを習いに行きはじめました。そのときのマリンバの先生の導きもあり、高校卒業後は、世界的マリンバリスト安倍圭子さんのいる桐朋学園大学に進学しました。マリンバは、ピアノにはない変拍子があったり、現代音楽を弾くことができることも魅力を感じました」

「音楽大学に進学することは、もともと考えていたのですか？」

「音楽を始めたばかりのころは、音楽をずっと続けていくとか、将来のこと何かも考えていませんでした。

でも高校に入ったときは、すでに大への進路は意識していました。東京へレッスンに行ったり、音大試験に向けた音楽理論、ソルフェージュなどを勉強しました。でも感覚としては、『音楽を仕事に!』という意識でもありません。今現在も、ただ音楽を続けているという感覚です」

「音楽生活」

「マリンバなどの打楽器を通して、いろんな世界があることを知り、いろいろな世界を豊かにしてくれるものだと思います。アメリカやヨーロッパなど、海外で生活することで、客観的に日本を見ることもできました。一番のカルチャーショックだったのは、アメリカの大きさ。通りと家があつて、人が笑っていて、そこにはパーティーがあるんです。日本は産業技術は進化していますが、芸術文化が遅れていると感じる場面も少なくありません。生活を豊かにするものが少ない気がしました」

「ヨーロッパでの生活では何かを感じましたか？」

「人があたたかいですね。街にも歴史が詰まっています。パン、チーズ、ハム、そこにワイン、『それだけあればいい!』という感じなんです。『お金がない!』って言っている同世代の仲間も、家で楽しそうにワインを飲んだり食と生活が豊かなんです。その豊かさは、すごい魅力を感じました。20年くらいはヨーロッパを拠点にして活動していました」

安心安全に自動車を運転できるよう、
日々の点検・整備に励む。



清水優さん(1999年生まれ)
愛知産業大学三河高校 出身

トヨタオートサービス株式会社

豊橋市植田町新津田6
<https://www.toyotetsu.com/auto/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→自動車の車検・修理などをおこなう企業に就職→自動車整備士の資格を取得

—学生時代

「高校生活は、友達とたくさん遊んだことが一番の思い出ですね。勉強面は、電気科だったので、電気回路についてや電気配線のつなげ方などを学びました。在学中に第二種電気工事士の資格を取得することもできました。高校卒業後は、求人票から選び、様々な車両の車検・点検・修理などをおこなうトヨタオートサービスに就職。実家から通いやすかったことや、単純に自動車やバイクが好きだったことが就職先を選んだ決め手です」

—仕事について

「入社後、最初に教わるのは車検整備から。先輩についてもらいながら、タイヤを外したり部品の分解や整備をおこない、不具合があれば故障部位を修理していきます。知識ゼロからのスタートだったので、プーラーやラチェットなど整備道具の使い方、自動車の構造なども仕事をしながら1から覚えていきました。覚えることが働きはじめのころは本当にたくさんありましたね。現場で経験を積みながら、知識と技術を身につける感じです。2年ほど経験を積むと、一通り自分ひとりで車検整備ができるようになります。今では、私が新人に車検整備について指導する立場になりました。実務経験を積んだのち、3級自動車整備士の資格を取得しました」

仕事内容について教えてください。
「お客様が安心安全に自動車を運転できるように、点検・整備・修理をおこ



ないです。『自動車のお医者さん』のような仕事』と言われることもあり、車検は、検査項目にそって点検をおこない、異常があった部分は修理や部品交換で対応して自動車に安全に走れる状態に整備します。車検以外にも故障車の修理もおこないます。修理内容は、『エンジン・チェックランプの異常』や『走っていると異音がある』など、自動車によつて本当に多種多様。車種によつても部品や整備の仕方がまったく違うので、お客様から症状を聞いて臨機応変に対応していきます。いろいろな修理を対応し、経験を積んで覚えていくしかないですね」

—やりがい

「難しい修理をしたときは達成感があります。エンジンがかかってちゃんと走れるようになったときに、『ありがとう!』と言ってやることももらえるたり安心してもらえたりするとやりがいを感じます。お客様とのふれあいも仕事のモチベーションにつながっています。現在の目標は、『2級自動車整備士を取得すること。そのために、日々の仕事に全力で取り組んでいます』

—メッセージ

「自動車整備士の資格を取得するために、専門知識が学べる学校に進学するか、現場で経験を積むかのどちらかですね。入社時の私は知識がない状態でしたが、先輩の指導のおかげで仕事を覚えることができました。実務経験を積んで資格取得もできました。先輩に教わったことを素直に吸収していけるかが重要だと思います。高校時代は、友達との出会いを大切にしてくださいね。遊んでください。そのときにしかできないことがあるはずなので、精一杯楽しんでください!」

ありがとうございます。



自動車整備

- 18歳 電気回路や配線について学ぶ。高校卒業後、トヨタオートサービスへ。
- 19歳 自動車の構造、自動車の点検や整備などについて学ぶ。3級自動車整備士の資格を取得。
- 23歳 お客様の安心安全なカーライフを支えるため、日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



常に笑顔を絶やさずに、誰からも話しかけられる介護福祉士が目標。



片山千晶さん(1992年生まれ)

安城学園高校 出身
慈恵福祉保育専門学校 卒業

グループホームじけい

安城市西別所町中新田20
<https://grouphomejikei.wixsite.com/mysite-1/>

●必要資格 / 介護福祉士
●主な進路 / 高校卒業→介護福祉士の養成課程がある専門学校、短大、大学に進学→介護福祉士の資格を取得→介護施設に就職

——学生時代

「高校時代は、学園祭の実行委員の活動が思いに残っています。先輩や後輩など、学年、学部の違いと交流する機会をもてたことがよかったです。母に進路相談をしたときに、「性格的に介護が向いているんじゃない？」とすすめられて福祉の道に。家から通いやすいこともあり、慈恵福祉保育専門学校に進みました。オープンキャンパスに行ったとき、先輩が優しく、先生もニコニコしていて雰囲気よかったです。そこでも決め手になりました。そこで出会った人同士で話す時間もあって仲良くなり、一緒に入学できたのもうれしかったです」

——専門時代について教えてください。

「座学では、介護保険制度やコミュニケーションなどを学びました。車椅子の利用者さんに対して視線を合わせた喋り方や障がいのある方への声のかけ方も学びました。実際では、車椅子からベッドへの移乗、食事や入浴の介助について学びました。介助者として介助される側の役割を学生同士で担当して練習しました。力任せにおこなうのではなく、この原理を使った体に負担の少ない介助方法を学べたことは仕事でも役立っています。ベッドの高さの設定ひとつで、体への負担が全然違うんですよ」

——仕事について

「認知症高齢者の方が共同生活を送るグループホームじけいで働いています。利用者さんの生活の介助



以外にも、利用者さんとの信頼関係を作ることやご家族との関わりも大切な仕事。必要なのは介護技術だけでなく、「どうしたら、利用者さんが自分らしく少しでも幸せに過ごせるか？」ということを日常の生活の中から感じることが大切です。花が好きな利用者さんと一緒に花を見に行ったり、歌が好きな利用者さんと一緒に歌を歌ったりもします。ご家族ともコミュニケーションをとって、利用者さんが楽しい日々を過ごせるように実践していきます」

働くうえで大切なことは？

「交代で勤務をするので、利用者さんの情報をしっかりとスタッフ同士で共有することが大切です。看護師さんとの連携も大切。状態が思わしくないときやケガをしてみましたときは相談するようにしています」

——やりがい

「ご家族の方から『いつもありがとう。ごさいます』という言葉をいただいたり、普段はあまり話さない利用者さんが話しかけてくれたりするとうれしいです。常にニコニコした笑顔を心がけていて、誰からも話しかけられる介護福祉士が目標です」

——メッセージ

「介護福祉士の資格があると、専門知識や技術を学んだことで自信をもって仕事に臨めます。慈恵福祉保育専門学校では、知識や技術のほかにも道徳をめざす仲間ができたことも大きいです。今も悩みを相談しあっています。違う施設で働いている友達からは、自分とは異なる視点でアドバイスをしてくれそうですし、職業理解をしたらうえで話しあえるので支えになっています。高校時代はやりたいと思ったことに挑戦してほしいです。友達をたくさん作って楽しい時間を過ごしてください！」

ありがとうございます。



自分探し

18歳
↓
20歳
↓
30歳

学園祭の実行委員に所属し、楽しい高校生活を送る。
慈恵福祉保育専門学校では、介護知識やコミュニケーションについて学ぶ。介護福祉士の資格を取得。
グループホームじけいに勤務。利用者さんが少しでも楽しく幸せな時間を過ごせるように仕事に励む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



一人でも多くの人を救いたいという
強い気持ちをもって訓練に取り組む。



吉口 慎太郎 さん (2000年生まれ)

岡崎商業高校 出身

陸上自衛隊第10高射特科大隊

豊川市穂ノ原1-1(陸上自衛隊豊川駐屯地)
https://www.mod.go.jp/gsd/mae/10d/butai/butai/10a/index.htm

なるためには

●主な進路 / 高校・一般大学卒業→一般曹候補生・自衛官候補生として自衛隊に入隊
または、一般大学・防衛大学校等を卒業→幹部候補生から自衛隊の幹部として入隊

——学生時代

「高校時代に頑張ったことは部活です。体を動かすことが好きだったので、陸上競技部に入り、毎日部活に励んでいました。仲間と協力して高みをめざすことが楽しかったです。あとは、パソコンや情報処理について学んだことも印象に残っています。現在は仕事でパソコンをさわる機会が増え、高校の学びをいかせる場面も多いです。高校卒業後は、陸上自衛隊に入隊しました。体を動かすことが好きだったこともありますが、自衛官の兄の存在も大きいですね」

——仕事について

「まずは、3ヶ月の教育期間があり、仲間意識、小銃など武器の扱い方、規則などを教わりました。体力や知識など、自衛隊員として活動をするうえで土台となる部分を鍛えられました。途中、同期とはいえキスギスしてしまうこともありましたが、教育期間が終わるころには一体感も生まれて、『みんなで頑張ろう!』という助け合いの精神が自然と生まれていたと思います」

仕事内容を簡単に教えてください。

「教育期間を終え、第10高射特科大隊に所属しました。主に敵の航空機をミサイルで撃ち落とす任務です。陸上自衛隊で唯一、対空戦闘を主とする部隊です。現在は、7月に北海道の海でおこなわれる対空実射訓練に向けて訓練をしています。ほかにも文書係を担当しており、上からの連絡事項や命令をパソコンで処

——やりがい

「1年に1回おこなわれる対空実射訓練で、標的機に対してミサイルが実際に命中したとき、訓練の成果を実感できたときにやりがいを感じます。全国から高射特科の部隊が集まってきて、戦闘機の点検の様子、射撃までの準備動作、標的機に命中したかなどを点数にして合計点で競います。そこで日本一になれたときは、大きな達成感を得ることができました。一緒に努力してきた仲間とよるこびを共有できることもうれしいですね」



心にかけていることは?

「自衛官の仕事は、国民の安全な生活を守る、被災地の人たちを救うことです。国を守るという強い意識

——メッセージ

「体力面が心配：訓練を乗り越えられるか心配：など、不安を抱えている人もいるかもしれませんが、仲間の存在が大きな力になりますし、心配しなくても大丈夫ですよ。それよりも、日々の活動を通して自身の成長を感じられる場面のほうが多いです。高校時代は、幅広い世代のいろんなタイプの友達をたくさんつくってください。社会に出ると、本当にいろんな人がいることを実感します。高校生活を通して、いろんな人の人生観・価値観を吸収してほしいです」

ありがとうございました。



18歳 陸上部に入り、部活に励んだ高校時代。卒業後、自衛隊に入隊。
19歳 3ヶ月の教育期間を終えて、第10高射特科大隊に配属。
23歳 日々の活動、訓練を通して、国民の安全な生活を守る。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

http://amb100search.com



いつもより少しだけ豊かな時間を
感じてもらうことが私の仕事。



岡田桃子さん(1990年生まれ)

安城学園高校 出身
愛知学泉短期大学 生活デザイン総合学科卒業

Hastamañana

岡崎市康生通南3-39 NTT西日本岡崎ビル1F
https://www.instagram.com/hastamanana_booze/

なるためには

- 必要資格 / 酒類販売業免許、飲食店営業許可
- 主な進路 / 高校卒業→短大に進学し、幅広い分野を学ぶ→酒類販売業免許、飲食店営業許可を取得し、クラフトビール専門店をオープン

— 学生時代

「高校時代は、サッカー部のマネージャーをしていました。できる限り冷たい状態で飲み物を用意したり、タオルを凍らせて持っていたり、選手が気持ちよく練習に取り組めるようサポートに専念しました。当時は、まだ自分が何をやりたいのかわからない状態。高校卒業後は、幅広いカリキュラムを学ぶことのできる愛知学泉短期大学の生活デザイン総合学科に進学しました」

「クラフトビールを通して、生活の豊かさを感じてもらうことが私の仕事です。クラフトビール以外だと、ジュース、タコスなどの軽食を提供しています。このお店でお客様のコミュニケーションができるのもうれしいですし、購入して自宅でも楽しい時間を過ごしてもらおうのもうれしいです。人と人がつながるきっかけになる場所として、私のお店が存在してほしいですね」

「高校時代を振り返って一番後悔しているのは、将来のビジョンがまったくなかったこと。友達と遊ぶことも大事ですが、将来の自分が苦勞しないように選択肢が広がる生活を送ってほしいです。自分は何をしているのが楽しいのか、うれしいと思えるのかを考えるといいですよ。人を笑顔にしたいと思うなら、『みんなを笑顔にできる仕事ってなんだろ?』と考えることができません。まずは、自分を知ることからですね。それが、やりたい仕事が見つかるきっかけになると思いますよ。ありがとうございます」

— 仕事について

「コロナ禍で仕事でもプライベートでも外出する機会が減り、当時勤めていた仕事に対するやりがいも薄れていくのを実感しました。将来のことを考えたとき、だったら自分が『心からやりたい』と思えることに挑戦しようと思い、クラフトビール専門店『Hastamañana』をオープンしました。『やりたい!』という気持ちを優先して、そこまで深く考えずに始めました。地産の材料を使って製造しやすく、様々な種類があってテイストが豊かなのがクラフトビールの魅力。自分が好きな

— やりがい

「今日は家で焼肉なんだよ!」晩ご飯は肉じゃがで」といったお客さんとの会話を通して、おすすめのカラフトビールを紹介します。『すごい味だね』『どんなところで作ってるのかな?』とか、会話の糸口にもなっていて、家で過ごす時間がいつもより少し豊かになっていたらうれしいです。近年、新しいブルワリーも増えていますし、新商品もたくさん出ています。おいしい商品を発掘して、それをお客様に届けられることがやりがいです」

— メッセージ

自分探し

17歳
20歳
31歳

サッカー部のマネージャーとして、選手のサポートに取り組む。
短大に進学し、オフィス関係から美容、フードコーディネーターまで幅広い分野を学ぶ。
コロナ禍をきっかけに、「やりたいことに挑戦しよう!」と一念発起。「Hastamañana」をオープン。



先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!
<http://amb100search.com>



様々な業務を通して、
市民のために働ける場所が市役所。



足立健児さん(1993年生まれ)

成章高校 出身
東海学園大学 スポーツ健康科学部卒業

豊橋市役所

豊橋市今橋町1
<https://www.city.toyohashi.lg.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学でスポーツ分野を専門的に学ぶ
→豊橋市役所に入庁→上下水道局に配属→こども未来部に配属

—学生時代

「中学・高校時代は野球に熱中していました。部活漬けの毎日。厳しい環境でひたすら練習を続けることで忍耐力が身についたと思います。当時はスポーツに興味があったので、高校卒業後は東海学園大学のスポーツ健康科学部に進学しました」

—大学時代について教えてください。

「身体の構造やメカニズムなどを科学的な目線で学びました。実際に肩甲骨などの可動域を広げる運動をやってみることで、説明だけだとイメージしにくいことでも実体験を通して身体の構造を学ぶことができました。『こんなに変わるんだ!』という新しい発見もありました。まわりには、体育教員志望の人もいれば、トレーナー志望の人もいる環境。体育やスポーツに関する進路をめざす人に対して、幅広くコースが設けられているところが東海学園大学の魅力だと思います。それぞれめざすところは違いましたが、まわりの仲間の存在が『自分も頑張ろう!』というモチベーションにつながりました」

—仕事について

「大学時代に高齢者を対象とした運動講座を開いたことがあり、それに近いことを幅広く市民に提案したいと思ったのが公務員をめざしたきっかけです。市役所は、多面的にいろいろな業務を通して市民のために働くことができます。様々な分野から市民の力になりたいと思いい、豊橋市役所に入庁しました」



—仕事を簡単に教えてください。

「市民の方が抱える疑問や不安を解消し、安心して生活できる環境を作ることが私たち市役所職員の仕事です。現在は、こども未来部の保育課で働いています。入園申し込みの受付や審査決定、各保育園への補助金の支払い、市民の方に向けて入園相談などをおこなっています。日々の仕事や活動を通し、子どもたちがやりたいことを制限なくやれる環境づくりをサポートしたいと思っています」

—やりのがい

「市民の目線に立つて不安に思っていることを聞き出し、それを解消できたときにやりがいを感じます。『知らなかった』『ありがとう』と直接言ってもらえることもうれいですが、市民の方からの感謝の言葉が何よりのやりがいです。現状では、補助金によって各保育園の運営が成り立っているといっても過言ではありません。補助金の支払いを適切におこなうことで、間接的にですが、園を利用する保護者や子どもたちの役に立てていると思うと仕事に誇りを感じます」

—メッセージ

「市役所で働くには、採用試験(教養・SPI)に合格する必要があります。試験に向けて、大学で開かれている試験対策講座を受講するのもいいかもしれません。高校生活は人生で一度きり。今をいっぱい楽しんでもらいたいです。時間が許す限り興味があることに挑戦してみるといいですよ。様々なことに挑戦することで視野を広げ、いろいろな視点から物事を考えられるようになってほしいです。そこで得た経験は、大学受験や就職活動をはじめ今後の人生でいきでくると思っています。ありがとうございました。」



自分探し

18歳
↓
22歳
↓
27歳

野球部に所属。部活漬けの毎日で、厳しい環境で練習を続けることで忍耐力が身につく。

市民の力になりたいという思いから、豊橋市役所に入庁。

こども未来部保育課に勤務。子どもたちがやりたいことを制限なくやれる環境づくりに励む。



先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!
<http://amb100search.com>